

温暖化防止ながれやま便り

第8号

平成25年6月

温暖化防止ながれやま

代表 春田育男

流山市美田 69-57

編集 石垣 幸子

平成25年度 活動方針決まる

平成25年4月6日に北部公民館で総会を開催。
下記を承認した。

- 1, 24年度活動報告（別記の通り）
- 2, 24年度収支決算、監査報告
- 3, 25年度活動方針

<活動の方向性>

地球に優しい低炭素なまちづくりを推進する。「広げようエコの輪と地域の和」を理念として、省エネ活動の啓発・促進、省エネ機器の普及、再生可能エネルギーの普及、交通利用の改善、緑地保全、防災対策、地産地消などを推進。

<25年度の活動>

- a : 啓発活動（環境講座、出前講座）
- b : 調査活動（環境家計簿ほか）
- c : 学習会（省エネ市民会議ほか）
- d : 広報活動（HPの充実、会報）など

4、活動体制

- ・理事 代表 春田育男
- ・理事 副代表 塩幡一二
- ・理事 事務局長 突田芳宏
- ・理事 同次長 板倉 正
- ・理事 広報部長 石垣幸子
- ・理事 監査 難波幸男
- ・理事 同 奥田征男
- ・理事 アドバイザー 小山 俊
- ・理事 同 新田 修
- ・理事 同 平手 彰

5、25年度予算

6、会則変更、規定制定など

地球に優しい「低炭素な街づくり」を

春田育男（代表）



平成25年度の総会で、第4代代表に選任されました春田育男です。NPO温暖化防止ながれやま（OBN）は、平成14年（2002）9月に設立し、10年を経過しました。こ

の間、小山俊さん、新田修さん、平手彰さんが代表として、会発展のため尽力されてこられました。発足当時の苦労話は平成25年2月18日の10周年パーティーで新田さんから披露されました。

5名で発足したOBNも現在は若手も加わって、30名となり、流山市から市民環境講座の開催委託を受けるまでの環境団体に充実しました。

私たちは、美しい自然と豊かな四季に恵まれた、素晴らしい流山文化を長い年月をかけて育ててきました。私たちの生活は、季節ごとの行事や旬の食べ物・飲み物などを通して自然と季節の移り変わりに深くかかわっています。

私たちに続く世代が平和で精神的にも豊かな生活を送れるよう、地球にやさしい「低炭素なまちづくり」を目指す責務が私たちにあります。

私たち一人ひとりの活動には限界がありますが、同じ心を持つ多くの市民の活動が積み重なることで大きな力となります。

OBNは、地球にやさしい「低炭素なまちづくり」を推進します。

24年度の活動報告

市民環境講座		会場	内容(テーマ)
第1回	5月13日	生涯学習センター	講演:江戸川は流山になにをもたらしたか(青木更吉氏ほか)
第2回	7月28日	生涯学習センター	夏休み親子で学ぶ楽しいエコ体験と工作
第3回	9月8日	ガスの科学館ほか	エコバスツアーで環境・エネルギー学習
第4回	12月9日	初石公民館	ながれやまエコ・チャレンジ(橋詰尚子氏ほか)
第5回	2月17日	生涯学習センター	講演(根本由紀子氏)&映画(ディ・アフター・トゥモロー)

出前講座		会場	内容(テーマ)
第1回	7月1日	西松ヶ丘自治会館	みんなで取組む節電ライフほか
第2回	7月24日	平和台自治会館	家庭の節電ライフほか
第3回	11月26日	江戸川台福祉会館	エネルギーと省エネ対策ほか
第4回	11月30日	美田自治会館	環境家計簿の普及ほか
第5回	1月20日	駒木台自治会館	冬の省エネほか
第6回	2月20日	老人福祉センター	ヒートショックとは
第7回	3月3日	駒木台自治会館	環境家計簿の記入方法ほか

展示対応		会場	内容(テーマ)
第1回	6月3日	生涯学習センター	まなび・ふれあい祭り(市民活動センター)
第2回	9月15日	南流山センター	NPO見本市(市民活動センター)
第3回	9月17日	幕張メッセ	エコメッセ2012inちば(エコメッセちば実行委員会)
第4回	10月28日	流山運動公園	市民祭り(流山市)

省エネ市民会議		会場	内容(テーマ)
第57回	4月13日	生涯学習センター	流山エコ活動エコポイント制について
第58回	5月11日	生涯学習センター	「環境未来都市」構想について
第59回	6月8日	生涯学習センター	「環境家計簿の分析」、24名の環境家計簿から見たこと、他
第60回	7月6日	生涯学習センター	太陽光発電システムについて
第61回	8月23日	東京ガス(千住)	東京ガス「Ei-WALK(イーウォーク)」見学会
第62回	9月14日	生涯学習センター	流山市の公共施設における光熱費の利用状況
第63回	10月12日	生涯学習センター	住まいの省エネ&太陽光発電、当会の紹介ほか
第64回	11月9日	生涯学習センター	スマートメーターについて
第65回	12月14日	生涯学習センター	気象変化レポートの解説
第66回	1月11日	生涯学習センター	スマートハウスについて
第67回	2月8日	生涯学習センター	我家の光熱費について、ほか
第68回	3月8日	江戸川大学	熱環境とライフスタイル&江戸川大学の見学会

都市ガスから電気をつくる？

板倉 正 (会員)

4月12日、京和ガス(本社)で省エネ市民会議を開催。次の内容を学んだ。

1、エネファームの原理と今後の見通し

(京和ガス 松浦専務、高橋特需課長、長江課員)

京和ガスからの説明は概要以下の通り。水に電気を流すと水素と酸素に分解する



(水の電気分解)。逆に水素と酸素を化学反応させると電気が生じ、水もできる。これが燃料電池エネファームの発電原理である。エネファームは都市ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応をさせて電気をつくる。しかも電気をつくる時に発生する熱を有効利用し、お湯もつくるのである。エネファームは自宅で発電できるため、遠方の発電所から送られてくる電気に比べると送電ロスも少なく2倍以上の発電効率となるそうだ。そして、エネファームは環境に優しい天然ガスの特性と、その優れた省エネ性によりCO2排出量を大幅に抑えられ、発電所より年間で約1.3トンものCO2を減らすことができるという

2、エネファームと太陽光発電システムの見学

京和ガス本社1階の外にあるエネファームで内

部ユニットの説明を受けた。さらに屋上に移動し、発電能力



10.08kWで、全量を売電する事業用太陽光発電システムを見学。屋上は防水加工が施されているので、屋上強度の関係から自重で保持できるドイツ製軽量架台を使用し、太陽電池モジュールは韓国製とのこと。

3、省エネ・断熱リフォームの実践例の紹介

(PV-net 新美氏)

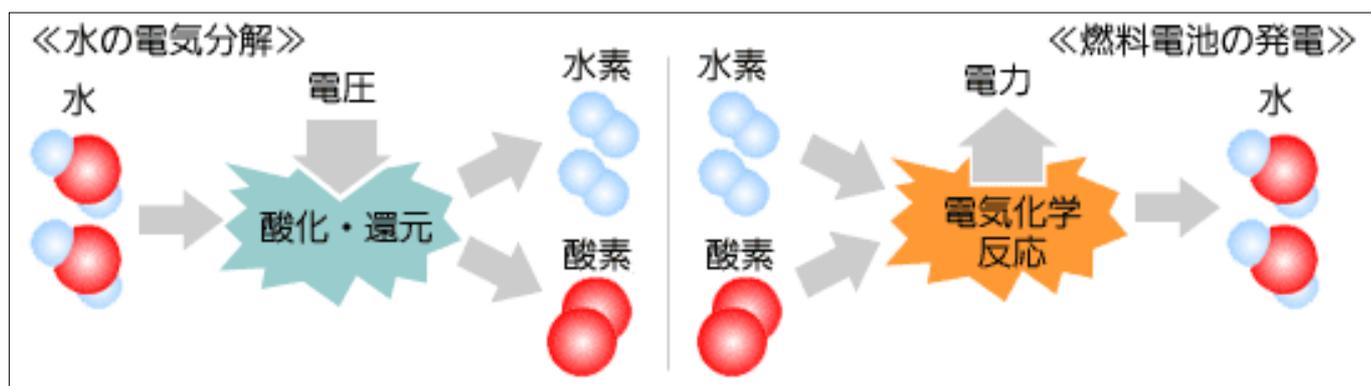
パワーポイントで、自宅の省エネ・断熱リフォームの実践例を紹介。太陽光発電の設置状況、北向き窓のリフォームをお一人で行なった事例などを紹介された。



4、最新の省エネ低炭素社会施策

(OBN 平手氏)

住宅・建築物での気密性の確保、断熱工法などが重要視されるようになり国交省も施策に入れ始めたので、これからの普及が加速するとの見通しを述べられた。



ソフトパワーで低炭素な環境を 目指す、ながれやま

遠藤 剛氏（流山市 環境政策課）

5月10日、省エネ市民会愚を開催。流山市環境政策課遠藤主任主事に流山市地球温暖化対策実行計画を説明下さった。

流山市では、早くから地球温暖化対策地域推進計画を策定した。わが国が昨年度から京都議定書の枠組みから離脱。国の中長期目標の策定やポスト京都議定書へ向けた議論など地球温暖化対策に係る国内外の大きな動きがあったことを踏まえ、先に策定した「地球温暖化対策実行計画（ながれやまにこにこプラン）」を、改定に向けての課題を検討した。

ソフトパワーとは、市民や事業者の環境意識の向上や活動改善による実践行動である。低炭素なまちながれやまの実現に向けた取組みは次の6つの重点プロジェクトにある。

1.環境家計簿普及プロジェクト

環境家計簿を「きっかけ」として、二酸化炭素排出量の「見える化」に取組み、エコライフを「実践」し、低炭素型のライフスタイルへの変革を促進する。

2.環境マネジメントシステム利用プロジェクト

すべての事業者が環境マネジメントシステムを取組み、環境負荷の少ない事業活動への変革を促進する。

3.再生可能エネルギー利用プロジェクト

太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの導入により、ハード面から低炭素型のまちづくりを促進する。



図4-1 流山市が目指す未来像

4.ながれやま交通改革プロジェクト

公共交通網の整備を進めると共に公共交通や自転車の利用をすすめ、自動車の利用低減を促進する。

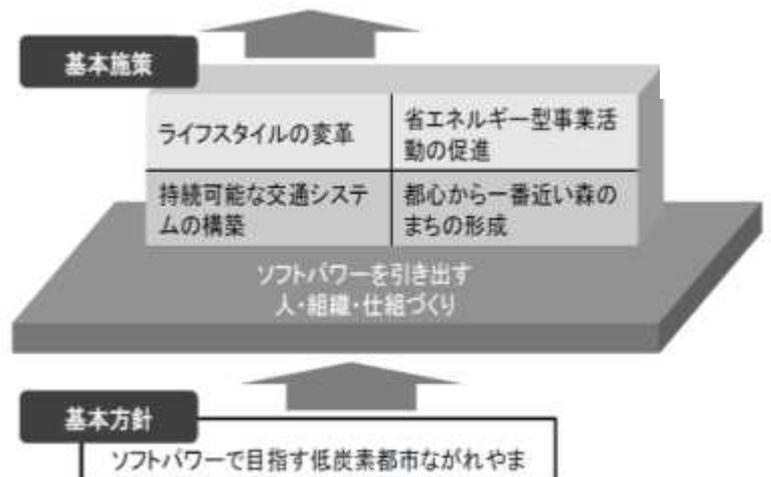
5.ケロクルタウン（循環型社会）形成プロジェクト

日常生活や事業活動で、ごみの減量と資源化を促進し、循環型社会を形成していく。

6.二酸化炭素吸収源対策プロジェクト

緑地の整備や保全、グリーン戦略などの促進で、緑豊かなまちを目指すと共に、二酸化炭素の吸収力を高める。

6つの重点プロジェクト



地球温暖化防止活動の動向

石垣幸子（会員）

昨年、OBNは10周年を迎えた。本年11月にポーランドで「第19回国連気候変動枠組条約締結国会議（COP19）」が開催する。地球温暖化防止の実施に向けて新たな合意が成されることを期待する。97年の京都会議（COP3）で議定書を採択。わが国は90年比6%の二酸化炭素の削減義務を負ったが、2005年に発効した京都議定書を2011年のCOP17で離脱してしまった。また民主党政権時に鳩山元総理が国連で表明した、「2020年までに1990年比25%CO₂削減」を、石原環境相は、COP19までに緩める方針のようである。

この10年の間、地球は温暖化によるとみられる深刻な気候変動が多発している。北極や南極の氷山、ヒマラヤなどの氷河の溶解により、海面上昇が進み、南の諸島では海岸線の水没が始まっている。日本でもここ数年異常気象が頻発し、集中豪雨や台風の大規模化、竜巻、そして今春には爆弾低気圧も発生した。私たちはこのかけがえのない美しい地球を次世代に継承する義務がある。そのため私たち、市民一人ひとりが気付いたことを実践することが大切ではないでしょうか。

<地球温暖化防止活動の歴史>

- ・ 1992年：「地球サミット」（リオ）で気候変動枠組条約を採択。条約は大気中の温室効果ガスの増加が、地球を温暖化し、自然生態系などに悪影響を及ぼす恐れがあることを人類共通の課題と確認し、大気中の温室効果ガスの濃度を安定させ、将来の気候変動がもたらす様々な悪影響を防止する取組みの原則、措置など定める。締約国会議（COP）を毎年開催すると決定。
- ・ 1995年：COP1（ベルリン）温暖化防止対策

の必要性は合意したが、削減の義務化は合意されず。

- ・ 1996年：COP2（ジュネーブ）同上
- ・ 1997年：COP3（京都）温室効果ガス削減の義務化を京都議定書で採択。
- ・ 200年：千葉県は地球温暖化防止活動推進員を委任開始。
- ・ 2002年：OBN発足。
地球温暖化対策基本法が制定
- ・ 2005年：京都議定書が発効。（日本のCO₂削減量は90年比6%。）
- ・ 2007年：IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は第4次報告書を公表。温暖化は「疑う余地がない」とし、対策の必要性を認識し京都議定書より1桁多い削減量が必要と判断。
- ・ 現在：2012年に京都議定書の約束期間が終わり、CO₂削減は実行されなかった。温室効果ガス削減の必要性を各国は認識するものの、削減率を巡って先進国と途上国は合意に至らず。一方、大気中の温室効果ガス濃度は年々高まり、本年5月10日にハワイ島マウナロア観測所（標高3397m）では観測開始以来、初めて400ppmを超えた。



第1回市民環境講座のお知らせ

～地球温暖化と利根運河の 生物多様性～

かつて、利根運河は江戸川と利根川を結ぶ人工の川の道であった。オランダ人技師ムルデルの指揮の下、モッコやツルハシといったほとんど人力による大工事であったと言われていた。

明治23年6月15日、時の総理大臣を迎えて竣工式がおこなわれた。

明治29年、土浦線(いまの常磐線)が開通し、陸上交通も発展した。運河は度々洪水に見舞われ、浚渫に費用を要した。そして、昭和16年7月大型台風に襲われた時、もはやそれを修復する力は無かった。この時、利根運河は川の道としての役割は終え、洪水対策の派川利根川として政府が買い取っている。

その役目を終えた利根運河は今、雄大な景色の中に、たくさんの鳥たちに出会うことができる。また希少種を含むたくさんの植物を確認している。今、全国的にトンボや蛙が減っているという。貴重な生物多様性を保つ利根運河の水環境を守り、温暖化のバロメーターとして注意深く守っていくのが、私たちの課題でもある。

1部 利根運河の自然観察

利根運河の自然を観察しながら「森の図書館」へ向かいます

集合：13:00 東武野田線「運河駅」改札前
(小雨決行)

ガイド：柳沢朝江さん(利根運河の生態系を守る会 植物調査班リーダー)

2部 講演会

会場：森の図書館視聴覚室

時間：14:00～16:00(開場13:30)

内容：映像とお話

みんな来てね!

1. 地球温暖化と異常気象 春田育男氏
(千葉県地球温暖化防止活動推進員)
2. 川のネットワークと利根運河 田中利勝氏
(利根運河の生態系を守る会 代表)
3. 生物回廊・利根運河 新保國弘氏
(東葛自然と文化研究所 所長)

参加者に地産地消、流山産
旬の野菜をプレゼント



利根運河

<編集後記>

関東地方も早々と梅雨入りした。日本は春夏秋冬ともう一つ梅雨を入れて五季の国だと言う人もいる。うっとうしくていやだという人もいるだろう。しっとりと落ち着いた雰囲気が好きという人もいる。世界中には異常気象で砂漠化が進んでいる地域もある。瑞穂が実る国を支えるこの梅雨をうらやましいと思っているかも。

(石垣幸子)